

古典的条件づけ

澤 幸祐 (2011)

廣中直行編, 心理学研究法3 学習・動機・情動, 誠信書房, pp. 16-40

学習と認知：随伴性判断を中心に

澤 幸祐・栗原 彬・永石 高敏・沼田 恵太郎 (2011)

廣中直行編, 心理学研究法3 学習・動機・情動, 誠信書房, pp. 69-92

「心理学研究法」と題したシリーズが東京大学出版会から上梓されてすでに40年近くが経過した。その間も心理学が扱う問題や現象は長足の進歩を遂げ、それに伴って研究に用いられる方法論もまた大きな進歩と細分化を遂げた。本書は、そうした情勢にあって心理学研究法に関する知見を最新のものに至るまで網羅的に解説するべく企画されたものであり、我々は中でも古典的条件づけおよび随伴性判断に関する章を執筆した。

古典的条件づけはPavlovによる研究以来、すでに100年におよぶ蓄積が存在し、ラットを始めとして多くの動物研究において用いられ、またヒトに関しても様々な形で応用されてきた。「古典的条件づけ」の章ではまず、現在でも用いられている動物実験研究における古典的条件づけ手法について概観し、合わせて統制条件の設定方法を始めとする教科書には載りにくい実験上は極めて重要なノウハウについても記述するように努めた。また、動物実験倫理についても概説し、動物実験の実施にあたってどういった心構えが必要であるかについても説明するように心がけた。「学習と認知」の章では、主に動物実験で検討されてきた古典的条件づけ研究のヒトへの応用の一つである随伴性判断に関して説明した。随伴性判断とは、外部事象間の関連や自らの反応と外部事象との関連などについてヒトが学習する過程を扱うものだが、その理論的背景は古典的条件づけに関して得られた連合学習理論を援用することが多い。連合学習といった基礎的過程とヒト認知研究の接続という意味において、随伴性判断研究は重要な実験事態であり、本章ではそうした実験の実施にあたってどのようなパラメータ設定が重要であるか、刺激の提示方法にはどういったものがあるかを概説した。

「実験科学において重要なことは、綺麗な試験管を使うことだ」と大学院時代に言われたことがある。研究法について十分な知識を得ることは、「綺麗な試験管を使う」ためには極めて重要なことである。いい加減な方法では、いい実験を行うことはできない。これらの章で取り上げた問題について、より多くの人々が関心を持って「綺麗な試験管」を使ってもらえれば幸いである。